

あとで待めて下さり、皆さん本当に親切に盛り立て下さったのです。藤井さんは「勉強勉強」と言ってます。タクトや不二屋ミユージックサロンに連れて行って下さり、バックキー、大橋、大塚、ボスのステージを視、夜はバンドに付いて行って、休憩の間にギターを教わったり、ジルバを踊ったり……。「アミ」での演奏にスチールギターはどうしても無理で、斉藤三男さんが助けてくれました。

ブレイ後のコメントのよせ書きに、島田さん「これだけ出来るとは思わなかった、将来が楽しみだ。」、稲垣さん「最初としては上出来でした、しかし、ここでおこつてはいけません。たえず未だ到達出来ないものがあると思つて精進して下さい。」、メンバーでギターの小林恵美子「最初のステージの割には良く出来た。」、ギターの菊池宏子「手がブルブル、足がガタガタ、胸がドキドキ」、ウクレレの荻野谷(現・野上)美代子「大いに練習を積み、頑張ります。」、ウクレレの藤田(現・平見)芳江「靴下より強い女性の心臓。」等のコメントが残っております。私はあがつて何も憶えておりません。横で皆谷さんが正しいリズムでギターを弾いて助けて下さったおかげです。「期待以上の成果で大変うれしかった」と書いて下さっています。百パーセントお世辞ですが、とりあえずデビューしました。

驚く事には、早くも五月十五日和



後列左から 大江(旧姓佐藤)純子、ラジック(犬丸)俊子
前列左から (円城寺)静子、竹内、石垣彌子、(植田)茂子、
熊野糸娘、井上(旧姓阿部)久仁子

泉祭には「ワイキキ・ドリーマーズ」

と共にステージに上がっています。森沢さんがスチール、かけの方で石田さんがギターを弾いて下さってる姿が写真に残っています。Tシャツにマジックでやしの木を書いただけの粗末なユニフォームで「ホワイト・アンド・セピアーズ」と言うモダンな名前もこの頃付けたと思います。一九六〇年四月新入生阿部久仁子が入部し、ピアノが出来ましたので「それスチールギターを」と、森沢さんの特訓を受けました。

十一月の八十周年祭には、ついに女の子だけのバンドで出演する事が出来ました。
一九六一年には阿部・私を除いた全員が卒業してしまつたのですが、スチールギターも段々腕が上がつて行き、新入生の熊野糸娘というボーカリストが入つて来ました。その素

早い歌唱力のおかげが本当に大きかったです。

八人編成のバンドになり、ハイとも出来るほどに成長しました。

一九六二年、今度は私だけが卒業し、引き継いだベースの笠原(現・鈴木)節子はピアノが出来ると仲々立派なもので、明大にガール・ハワイアンありという所に消ぎつきました。

OB、OG ハワイアンバンド

大江純子(S'37年卒/GH)

一九九五年二月、楽友会常任幹事に於きまして、「元来音楽のないOB会は無意味である。何らかの形でブレイする楽友会であつて欲しい」と言う若いOBの意志を受けて、OBバンドを作つて秋に演奏会を開きたいと言う企画が出されました。卒業と同時に楽器を奏する事を止めてしまった人達が殆どと推察されますし、果して成り立つものかしらと案じつつハワイアンのOB、OGの事を考えました。

ロツクの侵略に依り一九七五年には我がハワイアンは存在しなくなつていきました。ずっと寂しい思いを抱いていました。全員八六名のOB、OGに先ず呼びかける便りを出しました。すでに鬼籍に入られた方、外国住まいの方、行方が分からない方を除いて、六五名でした。

思いも掛けない参加の返信を沢山

いただき、五月十四日に懇親会を藤井さんの会社のロビーで開く事になりました。

皆さん遠くは北海道や四国から、十四名が出席下さり、二つや三つのバンドが出来るのではないかと思う位盛り上がりました。又ブレイは出来ないが当日は聴きに行きたいとか次の日程には出席したいと言う方も一七名ほどおりました。



一編の楽器で入れ代わり立ち替わりのものでした。皆さん仲々のものでした。

今年ウクレレブームの兆しがあるそう、楽器店は品切れ中だとか又ハワイアン音楽が日本にリバイバルするかも知れません。

ジャズを愛した皆さんも目下斉藤秀信さんのお竹折りでまとまりつつあるようです。十月のOBバンドの演奏会が大変楽しみみです。